

COLUMN — コラム —

酪農情勢と飼養管理 …理解してほしい3つのこと



らくのうマザーズ 常務理事
小池 泰隆

面白いコラムを書く予定でしたが、厳しい酪農状況の中ですので、やはり酪農情勢報告と乳牛飼養管理について書くことにします。

酪農経営環境がいまだに安定しない理由として3つの問題点があると思います。

① 生乳の需給緩和

生産者乳価が上昇し、酪農家の所得は以前より好転しています。しかし、牛乳の売価も上昇しているため、牛乳の消費が思わしくありません。生産量が全国的に落ちている中でも、需給緩和状況にあることは由々しき状況です。以前ほどではありませんが、加工仕向けが多く発生しており、乳価上昇が抑制されている状況です。「適正な価格形成」の議論が進んではいますが、消費が落ちれば無意味です。牛乳1000ml 300円でも普通に買っただけのような経済状況に早くなってほしいと願うばかりです。理解醸成も含め牛乳の消費拡大にみんなで取り組んでいく必要があります。

② 飼料を含めた生産資材の高騰

特に、飼料価格の高止まりが継続しており、収益確保の障害となっています。円安傾向がいつまで続くのかとても心配ですが、秋口には好転するとの報告もあっています。現在のコスト高で収益確保ができていれば、購入飼料価格等が低下した状況になると、大きな収入増となりますので、頑張りましょう。

③ 副産物価格の低迷

食肉業界は、インバウンドや外食産業の回復はみられているものの、物価上昇による消費者の節約志向の高まりなどを受け、非常に厳しい状況が続いています。鶏や豚と比較して、牛肉の消費が落ちている状況です。現在、円安により輸入肉の価格が高騰しており、乳用種経産牛肉の需要が見直されている状況ではあります。

現在、酪農に従事していれば、難なく生活できる状況ではありません。現況でも大きな収益を上げている農家もいれば、非常に経営難である農家も存在しています。経営状況の格差は、近年さらに広がっているのです。マザーズも国・県も各種助成を継続していますが、助成だけでは経営は改善しません。酪農家自身も現在農場が置かれている状況を考慮しながら、経営をよくするための取

り組みが必要です。自給飼料が少ないとか借入金が多いなどは非常

に大問題ではありますが、牧場の中にも、改善できるポイントはたくさんあります。経営を良い方向に導けるのは、基本的には酪農家自身なのです。酪農業界は、相互扶助の精神があり、多くの情報を皆で共有できる産業です。様々な情報、指導を参考にしながら、経営を好転させる取り組み強化をお願いします。

経営改善に向けた取り組みで一番大切なのは、乳牛飼養管理能力を高めることです。乳牛の飼養管理で重要なポイントは、3つあります。

① 粗飼料の品質を高める

特に、給与割合が増加している自給粗飼料の良し悪しによって乳牛はブレてきます。天候等により品質は大きく変化しますので、注意が必要です。今年のイタリアンなどは、長雨により収穫適期に刈り取れなかった農家が多いと思います。きちんと飼料分析を行い、使用方法について検討することが重要です。夏季の粗飼料の品質は、特に重要となりますので、購入粗飼料も含め品質や嗜好性の確認・確保に努めましょう。

② 移行期管理を充実する

泌乳後期から乾乳期、泌乳初期の飼養管理は、非常に重要です。分娩後の立ち上がりを良好にすることが大切です。良好な繁殖成績、高乳質、高い泌乳量を確保することができます。特に、暑熱時の乾乳牛管理は重要ですので、イネ科粗飼料を中心として、品質や採食量の確認に努めましょう。

③ 暑熱対策を徹底する

上記①②でも記述していますが、西南暖地では暑熱対策が非常に重要です。夏季は牛乳の需要期でもありますので、この時期に良質な生乳を多く生産することは、乳価も高く、自牧場の経営に大きく貢献します。今年の夏も猛暑であるとの予測が出ていますので、飼養管理の徹底に努めましょう。夏季の牛群管理により、経営状況は大きく変化しますので、頑張りましょう。

困難な状況が続っていますが、再び良き時代が来ることは、間違いありません。皆様が経営継続していただきますことを願うばかりです。

第1回酪農後継者育成塾が開催される

生産本部 営農指導課

11年前に産声を上げ、10回目となる酪農後継者育成塾が、去る、5月31日に今年度第1回目を開催し、29名が受講しました。



小池常務

冒頭のらくのうマザーズ小池常務の挨拶で、県内の出荷戸数や生乳生産状況、昨今の酪農を取り巻く情勢について話がありました。また、これから熊本の酪農を担っていく受講者に向けて激励の言葉がありました。

今回の育成塾は、らくのうマザーズ生産本部経済部村上部長より「生乳が乳代に変わるまで」、らくのうマザーズ生産本部指導部増田部長より「土づくり・草づくりのポイント」と題し、ご講演頂きました。

村上部長からは、生産者が搾った生乳がバルクからどのように流通して販売されているのか、更にそれに伴う乳代計算方法についての説明、本会工場の受入基準や抗生物質の検査等生乳の安全・安心に関わる話がありました。また、直近の需給状況や用途別販売、季節別乳価率、需要期生産の重要性についての話があり、最後に乳代を増やすためには飼養管理・乳房炎対策、暑熱対策等が大事だご講演頂きました。



村上部長



増田部長

増田部長からは作物の土壌養分や土の違いによる影響から土壌分析を定期的に行い、施肥による土壌改善を行っていくことの重要性、トウモロコシやイタリアンライグラスの雑草防除や適期播種・刈取り、保管中の穴あき等によるロスについてご講演頂きました。

受講後のアンケートでは、「季節別乳価調整金の割合が知れて良かった」、「生乳の品質管理の重要性が理解できた」、「土壌分析を行っていきたい」、「トウモロコシ播種時期や除草剤の散布時期を考えながら作業していく」などたくさんの感想を頂きました。



会場の様子

令和6年度も後継者の育成や交流を目的とした酪農後継者育成塾を全5回で開催予定です。ご興味のある方やお問い合わせ等ございましたら担当までご連絡下さい。

(営農指導課 096-388-3510 担当：鶴田)

第62回熊本県酪農青壮年部協議会 第53回熊本県酪農女性部協議会 通常総会

令和6年5月29日（水）、熊本市のメルパルク熊本にて、第62回熊本県酪農青壮年部協議会通常総会ならびに第53回熊本県酪農女性部協議会通常総会が開催されました。

冒頭、青壮年部の中村委員長と女性部の富田会長の挨拶があり、続く来賓挨拶にらくのうマザーズの大川専務、熊本県農林水産部生産経営局畜産課の長生審議員、全国酪農業協同組合連合会福岡支所の高橋次長よりそれぞれご祝辞を賜りました。

その後、議長に長塩昌也氏（JA菊池七城中央支所）と阿部愛美氏（大阿蘇酪農業協同組合）がそれぞれ選任され議事に入りました。両協議会とも、令和5年度事業報告及び収支決算承認の件など計4議案が上程され、いずれも原案通り可決されました。

また、本年度は役員改選の年であり、第4号議案では新役員として選任された方々については次表の通りに決定しました。

なお、令和6年度の主な事業計画は次の通りです。引き続き、各協議会の活動に関しましてご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。



中村委員長



富田会長



会場風景

令和6年度事業計画

経営活動（予定）

活 動 名	実 施 月	協 議 会
全国酪農青年女性酪農発表大会	令和6年7月	青壮年部・女性部
酪農女性レクリエーション大会	令和6年11月	女性部
青壮年部スポーツ大会	令和7年1月	青壮年部
酪農女性の集い	令和7年2月	女性部
熊本県酪農発表大会	令和7年3月	青壮年部・女性部

教育活動（予定）

活 動 名	実 施 月	協 議 会
ちちの日に牛乳（ちち）を贈ろう！キャンペーン	令和6年6月	青壮年部・女性部
夏季酪農大学	令和6年8月	青壮年部・女性部
マザーズ執行役員との意見交換会	令和6年9月	青壮年部・女性部
酪農ふれあい体験交流事業	令和6年11月	青壮年部
理解醸成活動	令和6年11月	青壮年部・女性部
九州酪農青年女性会議指導者研修会への参加	令和7年1月	青壮年部・女性部
農林水産省職員との交流会	令和7年1月	青壮年部
農林水産省での意見交換会	令和7年2月	青壮年部
牛乳・乳製品を使った料理コンクール	令和7年2月	女性部

MOTHER'S

熊本県酪農青壮年部協議会

地 区	組 合 名	氏 名	役 職
球磨・芦北	球磨酪農農業協同組合	中村 俊介	委員長
熊本	火の国酪農農業協同組合	堀 太	副委員長
玉名・山鹿	鹿本酪農農業協同組合	隈部 信孝	副委員長
菊池	熊本酪農農業協同組合	村上 茂之	委 員
菊池	菊池地域農業協同組合 泗水中央支所	古荘 直樹	委 員
菊池	菊池地域農業協同組合 旭志中央支所	三池 太樹	委 員
阿蘇	大阿蘇酪農農業協同組合	井上 智博	委 員
宇城・上益城・八代・天草	熊本宇城農業協同組合	野村 康生	委 員
宇城・上益城・八代・天草	上益城農業協同組合 清和統括支所	飯星 徳雄	委 員
宇城・上益城・八代・天草	八代地域農業協同組合	湯野 義弘	委 員
球磨・芦北	ホワイト酪農農業協同組合	菊池 博幸	委 員
玉名・山鹿	玉名酪農農業協同組合	前田 裕幸	代表監事
熊本	熊本市農業協同組合	吉村 方晴	監 事
菊池	菊池地域農業協同組合 七城中央支所	加藤 佑治	監 事

熊本県酪農女性部協議会

地 区	組 合 名	氏 名	役 職
鹿本	鹿本農業協同組合	内ヶ島美津代	会 長
玉名・山鹿	火の国酪農農業協同組合 荒尾支部	黒石 ふみ	副会長
阿蘇	大阿蘇酪農農業協同組合	渡邊かおる	副会長
菊池	熊本酪農農業協同組合	岡村 久子	委 員
菊池	菊池地域農業協同組合 大津中央支所	相馬 倫子	委 員
菊池	菊池地域農業協同組合 合志中央支所	後藤みどり	委 員
宇城・上益城・八代・天草	大矢野地方酪農農業協同組合	水野智恵美	委 員
球磨・芦北	球磨酪農農業協同組合	新堀 紋	委 員
球磨・芦北	ホワイト酪農農業協同組合	丹後 勝美	委 員
熊本	火の国酪農農業協同組合	寺本あけ美	代表監事
熊本	熊本乳牛農業協同組合	赤星 桃子	監 事
宇城・上益城・八代・天草	上益城農業協同組合 清和統括支所	長野 麗	監 事

第34回熊本県酪農ヘルパー利用組合 通常総会

熊本県酪農ヘルパー利用組合（生山組合長）の第34回通常総会が5月30日（木）、熊本市のメルパルク熊本で開催されました。

冒頭の生山組合長の挨拶では、令和5年度の利用実績について4,645回、前年比96.5%の実績となったこと。また、ヘルパー職員のスキルアップ向上として中堅酪農ヘルパー指導力向上研修に2名の職員が参加したことなどを紹介されました。



生山組合長

更に、ヘルパー職員の人数は、昨年度2名の採用と4名の退職者があり、20名の専任ヘルパー、1名の補助ヘルパー、1名の研修生、併せて22名体制であること。職員の流出に苦慮しているが、今後も引き続き人材確保に努めて行きたい。併せて、厳しい経営状況の改善が喫緊の課題であることについてご認識いただき、ご理解ご協力をお願いしますと挨拶。

続いて小池常務、熊本県農林水産部生産経営局畜産課主幹の中村氏より来賓祝辞がありました。

議事に入り、洞田貫 優造氏（大阿蘇酪農協）を議長に選任し、令和5年度事業報告及び収支決算承認の件、令和6年度事業計画及び収支予算（案）承認の件、令和5年度傷病時利用互助会収支決算承認の件、諸規程見直し（案）の件、役員改選（案）の件、提出された5議案について審議、

全議案が原案通り可決承認されました。

今回の諸規定の見直しの件につきましては、実施要領及び互助会規約の一部が改訂されました。

なお、新体制につきましては以下の通りです。



洞田貫議長

新役員名簿

役職	氏名	所属組合
組合長	岩根 正始	菊池地域農協（旭志）
副組合長	甲斐 裕章	熊本宇城農協
理事	森田 光	火の国酪農協
理事	坂本 博敏	玉名酪農協
理事	山田 幸浩	熊本酪農協
理事	田口英一郎	球磨酪農協
代表監事	藤本 広起	菊池地域農協（大津）
監事	和田 敬志	熊本市農協



小池常務



中村主幹



総会

生産本部指導部技術課新任者紹介



生産本部 技術課 眞野 美咲

皆様はじめまして、眞野 美咲（まの みさき）と申します。4月より移植師としてらくのうマザーズに入会いたしました。

私の出身は北海道で実家では酪農を営んでいます。高校までは地元で大学は江別の酪農学園大学に進学しゼミでは家畜の繁殖関係を学んでいました。元々は地元で働く授精師を目指していたのですが、ゼミで出会った先生に紹介して頂いたことがきっかけで就職を決めました。

私は子供の頃から牛が身近にいましたが、畜産業界に携わる仕事がしたいとはあまり考えていませんでしたし両親が毎日朝も夜も忙しそうに働いていて畜産は大変だというイメージしかありませんでした。しかし、高校の時進路に迷っていたところ、自分にとって一番身近な畜産という業界に目を向けると、獣医や授精師といった農家さんのために働いている人たちがいるということに気づきました。そこから駆け足ではありましたが大学に進学を決めました。大学では農業について幅広く学び、3年次から2年間は家畜繁殖を主に学ぶゼミに所属し、毎日牛舎管理をゼミの仲間とともに当番制で行っていました。ゼミでは牛の飼養管理から分娩、発情管理などを行っていました。卒業論文では乳牛の暑熱ストレスと受胎率について調査していました。直腸検査なども少しですが練習しましたが移植はほぼ練習もしたことがなく、毎日先輩方に教えてもらっているところです。ゼミで学んだ知識をもとに、国会技術課では日々勉強して一日でも早く1人前になれるように頑張ります。生まれも育ちも北海道で、あまりこちらの方言や環境に慣れていないためご不便おかけすることが多々あると思います。1人立ちするまではご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんがどうぞよろしくお願いいたします。



生産本部 技術課 松永裕一郎

皆様はじめまして。松永 裕一郎（まつなが ゆういちろう）と申します。東海大学農学部応用動物科学科を卒業し、4月より授精師としてらくのうマザーズに入会しました。

私は熊本市南區城南町の出身です。父母は酪農等といった、牛・動物と関わる職業ではないのですが、祖父母の家が阿蘇にあることもあり幼いころから牛やポニーといった動物と触れ合うことが多く、動物が好きな子供でした。このような幼少期もあり将来は動物と関われる職業に就きたいと思っていました。また、2016年の熊本地震の発生によって農業面から熊本へ貢献したいという思いも大きくなりました。

大学在籍時は草地学を専攻しており、野生動物や阿蘇地域の植生について学んできました。大学で牛に携われた時間は少なかったですが、自然と農業の密接な関係性について理解することができ、自分がこの業務に携われていることに喜びを感じています。しかし、実際に入会し先輩方に同行していく中で、まだ技術や知識が乏しく一人では何もできないことを痛感しました。今後現場で働いていくためにさらなる経験、知識、技術の習得が必要となるため、日々精進しています。まだまだ先輩方に同行し学ぶことがメインの日々ですが見かけた際には気軽にお声がけして頂くと嬉しいです。

趣味で大学時の友人とバンドを組んでおりボーカルを担当。音楽が好きで幅広いジャンルを聞いています。特にManeskinというバンドが好きです。また、家ではネコを2匹、犬を1匹飼っており、可愛さはどこにも負けないと思っています。

動物に関わる職に就くことができ、まだまだ技術も乏しく新たな技術、知識をインプットしていくことに精一杯な毎日ですが、皆さんのお役に立ち信頼して頂けるよう尽力します。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、これからどうぞよろしくお願いいたします。



令和6年度（2024年度）熊本県立農業大学校 オープンキャンパス「緑の学園」



1 目的

農業大学校を知りたい、農業体験をしてみたい高校生等の皆さんを対象に、オープンキャンパス「緑の学園」を開催します。

2 開催日時

第1回 令和6年（2024年）7月27日（土）午前9時50分～午後3時45分
第2回 令和6年（2024年）8月 3日（土）午前9時50分～午後3時45分

3 場所

熊本県立農業大学校
（熊本県合志市栄3805）

- バス
熊本駅乗車 菊池温泉方面行き 約50分
「大池・農業公園入口」下車 徒歩10分
- 車
九州自動車道
「植木IC」から 約11km 約25分
「熊本IC」から 約10km 約20分
「北熊本スマートIC」から 約5km 約10分



4 内容

- ① 農業大学校の概要紹介
農大生によるコースの紹介、授業内容や進路について説明します。
- ② 耕志寮の見学及び昼食
農業大学校の特徴である寮生活の紹介。寮の食堂で美味しい昼食をどうぞ。
- ③ コース別体験学習
興味があるコースを2つ体験できます。
希望コースを3つ選んでいただき、調整のうえコースを決定します。

農特産	水稲の生育・幼穂調査、ドローンによる防除見学等
花き	花収穫体験、フラワーデザイン体験実習
果樹	ブドウ、ナシ等の収穫体験・果実品質調査
野菜	接ぎ木実習、天敵の観察、サーモカメラ体験
畜産	牧場見学、IoTを利用した牛群管理実演
研修部	食品加工体験（第1回：7/27のみ開催）

※諸事情により体験内容が変更になる場合があります。



5 参加費（飲料・傷害保険料 当日受付で徴収します）

250円 ※交通費等は各自御負担をお願いします。

6 申込方法

参加には事前申込が必要です。
申込用紙に必要事項を御記入の上、在籍高校を通して、もしくは直接農業大学校へ提出してください。
申込用紙は、熊本県立農業大学校のホームページもしくは下記QRコードからダウンロードできます。
申込期限：令和6年（2024年）7月12日（金）



7 緊急時の参加者への連絡法

緊急時の参加者への連絡は、開催日の前日までに下記QRコードにアップします。

問合せ先 熊本県立農業大学校農学部 担当：中山・角崎
〒861-1113 熊本県合志市栄3805
TEL 096-248-1188、FAX 096-248-4432
<https://ws.higo.ed.jp/noudai/>



令和6年度（2024年度）「緑の学園」申込書 （熊本県立農業大学校オープンキャンパス）

令和6年（2024年） 月 日

熊本県立農業大学校長 様

私は令和6年度（2024年度）「緑の学園」（熊本県立農業大学校オープンキャンパス）に参加したいので、下記のとおり申し込みます。

高校名		学年	年
参加者氏名	カガナ	性別	男 ・ 女
生年月日	平成 年 月 日	年齢	満 歳 (参加日当日現在)
住 所	カガナ		
	〒		
連絡先 (自宅もしくは本人携帯)		緊急連絡先 (保護者携帯など)	
同伴者署名			※太枠内は同伴者または引率者の方で記入をお願いします。

※ 住所と連絡先等の個人情報については、本行事のみで使用し適切な管理に努めます。
なお、参加にあたっては、体調管理を十分に行ない、発熱や風邪症状等がある場合は参加されないようお願いします。

1 参加希望日

いずれか希望日に○をつけてください。

なお、申込締切は令和6年（2024年）7月12日(金)までとなります。

() 第1回 令和6年（2024年）7月27日（土）

() 第2回 令和6年（2024年）8月 3日（土）

※なお、参加者多数の場合は、参加日を調整させていただく場合がありますので、予めご承知ください。

2 体験学習選択

興味があるコースを2つ体験できます。下記の中から希望コースを3つ選んで記入してください。

第1希望 () 第2希望 () 第3希望 ()

①農特産 ②花き ③果樹 ④野菜 ⑤畜産 ⑥研修部（第1回のみ）

※コースは申込人数によっては調整が必要ですので、第3希望まで必ずご記入ください。
なお、最終的には希望に添えない場合がありますので、予め御了承ください。

※研修部は第1回のみ（食品加工体験）の開催となりますのでご注意ください。

3 昼食

参加者の昼食は大学校で準備します。

同伴者等（保護者又は引率者等）の昼食も準備します。希望される場合は御記入ください。

・同伴者の昼食を () 人分申し込みます。（※参加者本人は除く。）

4 研修に際しての要望等があれば記入してください。

問い合わせ先
熊本県立農業大学校
畜産学科 中山 統雄
TEL 096-248-1188(代)
FAX 096-248-4432